

む ゆう じゆ
無 憂 樹

※題字は前住職の筆

発行

浄土真宗 本願寺派(お西)

圓融山 信行寺

〒662-0921 西宮市用海町1-22

TEL 0798-22-2282



写真：信行寺本堂 阿弥陀如来像

当山創建当時(1391年)から伝わる一木造りの立像。第二次世界大戦の際、西宮空襲の数か月前に地中に埋めて無事だった。阿弥陀如来像研究の第一人者である故光森正士師によれば、作風からみて宇治の平等院の阿弥陀如来像を作った定朝の流れをくむ立像として、平安時代末期までさかのぼると考えられる。

お寺の掲示板

病いがまたひとつの世界をひらいてくれた 桃 咲く

～ 坂村真民詩集より～

第二十五代門主が語る
難しい時代を生きるヒント

ありのままに、

ひたむきに

不安な今を生きる

西本願寺 門主

大谷光淳



ホンネ対談

遠藤保仁氏
(ガンバ大阪)

大平光代氏
(弁護士)

ご門主さま
初のご著書

ありのままに、
ひたむきに

不安な今を生きる

西本願寺 門主
大谷 光淳

背伸びしなくていい、
よく見られたいと
思わなくていい——。

親鸞聖人の生涯を綴る第25代門主が語る
難しい時代を生きるヒント

70

PHP研究所 B6変型判・並製・160ページ 定価：本体600円(税別)

第1章 一瞬一瞬を精いっぱい生きる

第2章 困難な時代をともに生き、ともに歩む

第3章 現代に生きる仏教の教え、親鸞聖人の教え

対談 ● 遠藤保仁さんとともに

ぶれることなく思いを伝える ともに、よい方向をめざして

対談 ● 大平光代さんとともに

親と子が安心できる社会に お寺をほっこりできる場に

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人より受け継がれてきた法統を、私は平成26年6月に継承し、第25代の浄土真宗本願寺派門主・本願寺住職に就任いたしました。このことを阿弥陀如来と親鸞聖人の前に奉告する伝灯奉告法要をおつとめするにあたり、本書を出版することになりました。

(中略)

日常生活の中で、悩みや苦しみをかかえながら生きていかなければならない私たちにとって、時代は違っても親鸞聖人の生き方は、多くの人々を惹きつける魅力あるものと思います。親鸞聖人の生き方の根本にある阿弥陀如来の救いのはたらきをより多くの人々にお伝えし、みなさまがそのはたらきに出逢うことで、生かされているいのちを尊び、喜びの中で生きていかれることを願っています。

————— 本書あとがきより

【お問い合わせ】 浄土真宗本願寺派 本願寺出版社 TEL 075-371-4171

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル FAX075-341-7753

報恩講法要

「報恩講法要」とは、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただく法要で、浄土真宗で最も大事にされている行事です。

法話のご講師は、昨年の当山住職継職法要にもお越しくださいました浅田恵真和上です。親鸞聖人が伝えてくださったご法義と一緒に聞いてみませんか。どなたさまも、どうぞお気軽にご参詣くださいませ。

法要日程

十月十六日（日）

十三時半 お勤め

正信念仏偈

（休憩）

十四時半 法話

浅田恵真 和上

十五時半 雅楽演奏会

十六時 終了

ご講師紹介

浅田 恵真 和上

あさだ え しん
一九四五年（昭和二十年）生まれ

本願寺派勸学、龍谷大学名誉教授、文学博士
大阪府堺市 浄土真宗本願寺派 因念寺住職

著書

『仏教からみた修験の世界』

『生かされる命を見つめて』

『私の歩んだ仏の道』

『生かされて生きる』

～どうして人を殺してはいけないのですか？～
など多数。

住職が大学時代から現在に至るまで、ご指導をいただいている恩師です。浄土真宗のご法義を分かりやすく、そして有難くお話して下さいます。

※経本・お念珠・門徒式章をお持ちの方、ご持参下さい。

※全席イスをご用意しております。

※経本は当寺で貸出しています。



門徒式章

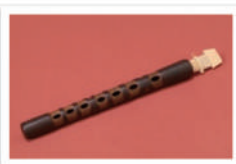
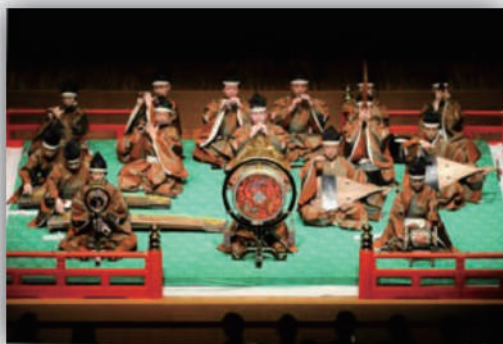
ご家庭で回覧し、とじて保存くだされば幸いです。



今年の報恩講は雅楽の演奏が入ります

雅楽とは、千年以上前から主に宮廷音楽として伝承されてきた現存する世界最古のオーケストラです。雅楽の演奏には、西洋のオーケストラと違い、指揮者がいません。またそのテンポも、メトロノームのように規則正しく刻まれるのではなく、一定の法則による演奏者同士の呼吸によって作り上げられます。

ここで一つ疑問が。「あれ、お寺で雅楽？雅楽って神社で演奏されるものじゃないの？」と思われるかもしれませんが、実は、雅楽は飛鳥時代に仏教と共に日本に伝わりました。そして、七五二年の東大寺大仏開眼法要でも雅楽は演奏されており、古くから仏教と深く関わってきました。今でも本山・西本願寺では毎月法要の度に演奏されます。この機会に、ぜひ雅楽の音色に触れてみませんか。



箏篳 (ひちりき)



鳳笙 (ほうしょう)



龍笛 (りゅうてき)

結婚ご報告

平成二十八年五月二十九日 おかげをもちまして、当山住職が本山の西本願寺にて仏前結婚式を挙行させていただきました。未熟な二人ではございますが、信行寺の護持発展のために精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

若坊守より一言

不慣れで勉強中の身ではありますが、住職、前住職、前坊守、そしてご門徒の皆様方のお力をお借りし、坊守として少しずつ慣れていきますよう、頑張つてまいりたいと思っております。今後とも、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

自己紹介

四夷絵理奈 (しいえりな) 神戸市出身 趣味…読書、パンづくり



国宝・飛雲閣の前で

随想

金子みすゞさんと金子大栄先生

信行寺老院 四夷教修



はじめにおことわりしておきますが、お二人とも金子姓ですがこれは全くの偶然です。

金子みすゞさんは今や国民的詩人です。明治三十六年山口県仙崎村に生まれました。本名はテル。みすゞはペンネームです。学校の成績は優秀で作文にも秀でていました。

大正時代の中後期は童話童謡の全盛期で、北原白秋の指導する「赤い鳥」、野口有情的の「金の船」、西條八十の「童話」と三大文芸誌が肩を並べていました。みすゞは大正十二年二十歳の時に童謡を書きはじめ、六月に「金の星」など四誌に投稿してすべて入選しました。翌大正十三年には彼女の作品は毎号「童話」誌上に光彩を放ち、西條八十の激賞を受けました。大漁は特に有名です。

大漁

朝焼小焼だ

大漁だ

大羽鰻の

大漁だ。

濱は祭りの

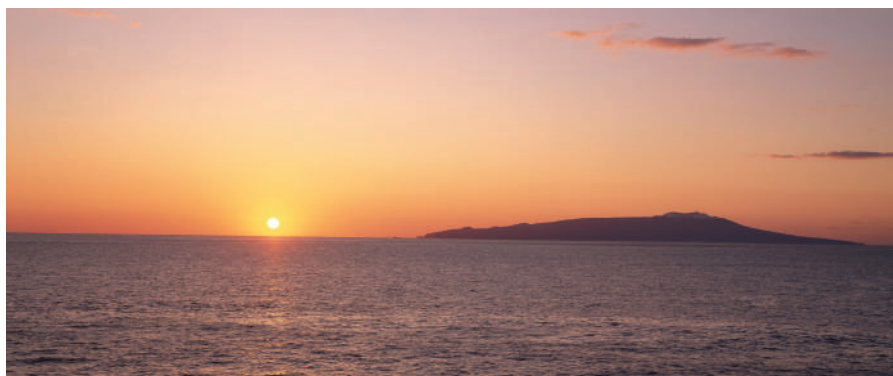
やうだけど

海のなかでは

何萬の

鰻のとむらひ

するだらう。



大正十三年三月結婚。十一月娘誕生、然しこの結婚は不幸でした。放蕩者の夫に淋病をうつされ、ペニシリンのない時代でしたので関節炎をはじめ全身に様々な合併症を引き起こしました。文学の素養なき夫から詩作を禁じられ詩友との一切の文通も止められて筆を断たざるを得ませんでした。

昭和五年二月離婚。夫の愛児引き渡しを要求を拒否する為、三月九日三好写真館で愛児に遺す最後の写真を撮って、翌三月十日自ら命を断ちました。二十六歳でした。

その後彼女の名前も作品も世に出ることはありませんでした。ところが昭和三十六年頃から、みすゞの「大漁」に感動した矢崎節夫氏が十数年をかけてみすゞの生涯を辿りその作品の発見に力を尽し、遂に五百十二篇を得て、JULIA 出版が金子みすゞ全詩集を刊行いたしました。その全篇を読んで、私は「さびしいとき」に心打たれました。

さびしいとき

私がさびしいときに、
よその人は知らないの。

私がさびしいときに、
お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、

お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、

佛さまはさびしいの。

そして私の生涯の恩師である金子大栄先生のことを想いました。金子先生は有名な佛教学者ですが、同時に求道者であり真の宗教者でした。先生は覚えてきたことを立て板に水の如くよどみなく話されるのではなく、御自分に言い聞かせるように、ぽつりぽつりと講義なさいましたが、ある時ふと視線を落として、

「うれしいときはうれし佛 かなしいときはかなし佛 さびしいときはさびし佛」と呟くようにおっしゃって、やがて気を取り直すように講義に戻られました。

私のような老境になりますと、うれしいことよりさびしいことの方が多いのです。さびしい時はさびし佛と唱えながら、みすゞさんの詩「さびしいとき」の特に最後の二行を想います。

法話

「俱会一处」のお浄土

信行寺住職 四 夷 法 顕



当寺では参詣時は主に『仏説阿弥陀經』を読経しています。その『仏説阿弥陀經』の中に、「俱会一处」という言葉が出てきます。これは俱（とも）に一処（ひとところ）に会うという意味です。阿弥陀さまのお浄土は、別れた有縁の人々と、ともに一処で会うことができる世界であるとして説かれています。

お釈迦さまは私たちの人生には様々な苦難が待ちかまえていると説かれました。そのうちのひとつ、「愛別離苦」という苦難があるといわれます。どんなに愛し合っているものであっても、縁が尽きたならば、生木を裂かれるように別れていかねばならないという苦しみのことです。しかし、浄土の教えを聞かせていただくとき、亡き方々との

出遇いの場が用意されていることが知られます。

お浄土は「あるのか、ないのか」と聞かれることがあります。客観的な存在性を議論をしても決して答えは出てきません。お浄土は私にとってなぜ必要なのか、私の上の話としてお経の言葉を聞かせていただく時、その人にとってお浄土は「ある」といえます。それは、いとしい人や親しい人々との別れを通して、この經典に説かれるお浄土の意味が、本当に知られてくるということなのかもしれません。

今から五年ほど前に、かねてより訪れたかった鹿児島県の知覧へ行く機会に恵まれました。ご周知のように、知覧とは第二次世界大戦時に特攻隊の前線基地があった場所で、そこには戦争

の悲惨さを後世に伝えていくべく「知覧特攻平和会館」があります。中へ入ってみると、銃や焼け跡がある服など、戦争の遺品が多く展示されていました。中でもシヨックを受けたのが、特攻隊の方々が家族のために書いた遺書です。特攻隊のほとんどの方が十代後半か二十代前半という若さでした。どの文面からも戦争の悲惨さが伝わってきて、涙なしで読むことが出来ませんでした。その中で、印象に残った二通の手紙を紹介させていただきます。まず初めは、弱冠十九歳の山下孝之さんです。

只今、元氣旺盛、出発時刻を待つております。

いよいよ、この世とお別れです。お母さん、必ず立派に体当たり

致します。

昭和二十年五月二十五日午前八時、これが私が空母に突入する時です。

今日も飛行場まで、遠い所の人々が、私たち特攻隊の為に慰問に来て下さいました。ちょうど、お母さんのような人でした。

別れの時は、見えなくなるまで見送りました。

では、お母さん、私は笑って元氣で行きます。

長い間、お世話になりました。

妙子姉さん、緑姉さん、武よ、元氣で暮らして下さい。

お母さん、お体大切に。

私は最後にお母さんがいつも言われる念仏を称えながら、空母に突入します。

南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。
南無阿弥陀仏。

この山下孝之さんという方のお母さんは、いつも念仏を称えておられたようです。自分が空母に突入する時に、

お母さんがいつも称えていた「南無阿弥陀仏」を自分も称えれば、「お浄土で再会できるだろうか」という思いが伝わってきます。

一方で、母親から息子さんへ宛てた手紙もあります。

ばくだんかかえて行く時は、かならずわすれまいぞ。

(ナムアマダブツ) ととなへてくれ、これが母の頼みである。

これさえ忘れないで居てくれたら、母は、この世に心配事はない。忘れないでとなへてくれ。この度合う時はアマダさまで合ふではないか。

これがなによりも母の頼みである。

忘れてはならないぞ。母より

(石川県出身 石川三郎大尉の母)

このように『仏説阿弥陀經』に説かれる西方極樂浄土とは、紛れもなく先人の方々の命を、根底より支えてきたことが窺えます。自身が積み上げてき

た知識や常識を振り回し、お浄土を「あるのか、ないのか」といった科学的な観点で考えるのであれば、お経のお心は聞こえてきません。お浄土とは、情の世界でしか生きることのできない私のために説かれた場所であり、どこまでも宗教的抛り処として、手を合わせて「南無阿弥陀仏」とお念仏申す生活の中で、はじめてうなずける世界なのです。そしてお浄土とは、私たちの人生において「あるか、ないか」の現実の有無を超えた、願わずにはおれない世界でもあるのです。

合 掌

